

研究種目：基盤研究 (C)

研究期間：2007～2009

課題番号：19520067

研究課題名 (和文) 戦後日本社会の形成と仏教社会運動

研究課題名 (英文) The formation of society and the Buddhist social movement in post-war Japan

研究代表者

大谷 栄一 (OTANI EIICHI)

佛敎大学・社会学部・准教授

研究者番号：70385962

研究成果の概要 (和文)：

本研究の目的は、アジア・太平洋戦争終戦後、伝統教団の改革運動と平和運動を実践した仏教社会運動が、戦後日本社会の形成にどのように寄与したのかを実証的に調査・研究するとともに、2001年9月11日のニューヨーク同時多発テロ事件以降の新たな宗教者平和運動が、現代日本社会で果たしている公共的役割を実証的に調査・研究することである。

一次資料の収集を中心とした文献調査、現代の宗教者平和運動の集会への参与観察、宗教者平和運動諸団体の関係者への聞き取り調査を通じて、戦後日本における仏教社会運動（とくに宗教者平和運動）は日本社会の公共的領域において活動がなされ、一定の公共的役割を果たしてきたことを明らかにした。

とりわけ、9・11以降の日本社会における宗教者平和運動は、平和運動セクターの一環として活動し、宗教的に意味づけされた日本国憲法九条を掲げながら、さまざまな立場の宗教者や労働者、市民たちとのネットワーク関係の中で公共的役割を果たしていることが明らかとなった。

研究成果の概要 (英文)：

The purpose of this research was to empirically investigate and examine how the Buddhist social movement that contributed to the reform of traditional sects and peace activities in the post-World War contributed to the formation of a Japanese society after World War II. It also considered the public function in contemporary Japanese society of the new religious peace movement that occurred after the events of 11 September.

It is clear that the Buddhist social movement (especially the religious peace movement) in post-war Japan was conducted in the public arena of Japanese society. This consistent public role was clarified through documentary research obtained by collecting primary sources, carrying out participant observation at the meetings of held by the contemporary religious peace movement, and conducting interviews of the participants of some religious peace movements.

It became apparent that the religious peace movement in society after events of 11 September is acting as part of the general peace movement, applying a religious definition of Article 9 of the Constitution of Japan, and playing a public role in relation to networks of religious persons, workers, and citizens from various standpoints.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2008年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2009年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・宗教学

キーワード：戦後日本社会、仏教社会運動、仏教社会主義、平和運動、公共宗教論

1. 研究開始当初の背景

近年、日本の宗教研究者の間では Engaged Buddhism 研究や公共宗教論の進展に見られるように、近現代社会の公共的領域における宗教の社会活動・政治活動に関する研究が注目を集めている。欧米でのこれらの研究の進展は、市民社会における宗教集団の社会活動・政治活動の公共的役割や、市民社会の公共性に対する宗教集団の関わりを主題化した、キリスト教をモデルとした研究の制約を感じさせるものであった。そのため、こうした問題意識から、日本社会の文脈の中で仏教集団の社会活動・政治活動の公共的役割を問い直し、その成果を海外に発信する必要性がある。

また、本研究は戦後から現代にいたる日本社会の宗教者平和運動を主たる研究対象とするが、その先行研究は少なく、とくに現代の宗教者平和運動に関する研究は皆無で、本研究が初の成果となる。

2. 研究の目的

(1) 現代日本社会と仏教社会運動

本研究の目的は、アジア・太平洋戦争終戦後、伝統教団の改革運動と平和運動を実践した仏教社会主義同盟（1946年創立、後に仏教社会同盟と改称）、全国仏教革新連盟（1949年創立）、宗教者平和運動協議会（1951年結成）、日本平和推進国民会議（1951～53年）等の諸団体による仏教社会運動が、戦後日本社会の形成にどのように寄与したのかを実証的に調査・研究するとともに、2001年9月11日のニューヨーク同時多発テロ事件以降の新たな宗教者平和運動の潮流を形作った平和をつくり出す宗教者ネット（2002年結成）、宗教者九条の和（2005年結成）等の諸団体による仏教社会運動が、現代日本社会で果たしている公共的役割を実証的に調査・研

究することである。

(2) 戦後日本社会の公共的領域と宗教運動
「仏教社会運動」とは私の造語で、仏教者（出家・在家を問わず）を運動主体とし、仏教的な価値や理念にもとづいて、社会と人間の改革をめざす集合行為である。つまり、仏教者や仏教集団による社会的・政治的実践が戦後日本社会の形成にどのような公共的役割を果たしたのかを明らかにすることが、本研究のめざす到達点である。言い方を変えれば、戦後日本社会の公共的領域における宗教運動の政治的・社会的機能を明らかにするために、本研究は実施された。

3. 研究の方法

(1) 文献調査

アジア・太平洋戦争終戦後から1950年代にかけての仏教社会運動に関する一次資料や当時の情報を伝える新聞・雑誌記事については、現在、アメリカのメリーランド大学に保存されているプランゲ文庫のマイクロフィルム版を国会図書館で閲覧したほか、研究機関（法政大学大原社会問題研究所、京都大学人文科学研究所図書室、同志社大学人文科学研究所、財団法人雲柱社 賀川豊彦記念・松沢資料館、部落解放・人権研究所図書資料室りぶら、宗教情報リサーチセンター（RIRC））、専門図書館（校成図書館、成田山仏教図書館、印刷博物館）、大学図書館（立教大学図書館、名古屋大学図書館、慶応義塾大学図書館、日本大学文理学部図書館、東京大学図書館）で資料を閲覧、収集した。

(2) 参与観察

また、現代の仏教社会運動（とくに宗教者平和運動）については、集会等への参加による参与観察、関係者への聞き取り調査、関係

資料の収集による文献調査を行った。

参与観察としては、平和をつくり出す宗教者ネットによる「第51回 憲法九条の遵守と自衛隊のイラク派兵・インド洋再派兵の中止を求める宗教者の毎月の祈りの要請行動」、日本宗教者平和協議会主催の故久保山愛吉氏墓前祭と原水爆禁止日本国民会議主催の3・1ビキニデー集会、9条ピースウォーク、「宗教者九条の和 輝かせたい憲法第九条 第4回シンポジウムと平和巡礼 in おおさか」等、宗教者平和運動の現場に赴き、調査を行った。

(3) 聞き取り調査

あわせて、日本宗教者平和協議会、平和を作り出す宗教者ネット、宗教者九条の和、平和を実現するキリスト者ネット、日本キリスト教協議会（NCC）、世界宗教者平和会議（WCRP）日本委員会の各関係者への聞き取り調査を行い、組織や活動の特徴に関する聞き取りを行った。

(4) 情報収集

アクチュアルな宗教者平和運動に関する情報については、新聞（全国紙・地方紙・専門紙）や雑誌に掲載された宗教関連記事を幅広く収集し、公開している宗教情報リサーチセンター（RIRC）で、相当数の情報を入手することができた。

4. 研究成果

(1) 資料収集の成果

今回の調査・研究を通じて、戦後初期の仏教社会主義同盟と全国仏教革新連盟の機関誌、現代の宗教者平和運動団体の機関誌等の一次資料、これらの団体の活動を報じた雑誌・新聞記事等を収集することができた。これらは戦後から現代の宗教者平和運動の軌跡を再構成するのに不可欠の研究資源となった。

(2) 参与観察と聞き取り調査の成果

現代の宗教者平和運動の参与観察と関係者への聞き取り調査を通じて、現代の宗教者平和運動の特徴やその活動実態を把握することができた。とりわけ、関係者の聞き取りを通じて、当事者の語る体験談を収集できたことは得難い成果となった。

(3) 研究成果の公表

学会発表や論文、図書の公刊を通じて、戦前から戦後、現代に至るまでの仏教社会運動（とくに宗教者平和運動）の公共的役割を分析した成果を公表した。

(4) 調査報告書の刊行

また、3年間の調査・研究の成果を、『平成

19～21年度科学研究費補助金 基盤研究（C）研究成果報告書 戦後日本社会の形成と仏教社会運動』として刊行することができた。本報告書は、「本研究・調査の目的と方法ならびに経緯」「論文『現代日本の宗教者平和運動の展開』」「資料（戦後日本の宗教者平和運動年表、9・11同時多発テロ事件等に関する宗教団体の声明文）」からなるが、とくに「戦後日本の宗教者平和運動年表」は初めて公にされる成果である。

以上、本研究を通じて、戦後から現代にいたる宗教者平和運動が次のような特徴をもっていることが明らかとなった。

①アジア・太平洋戦争の戦争責任の告白が見られること。戦争責任の自覚とその懺悔が戦後の宗教者による平和運動の前提にある。

②反戦や平和の根拠として、「不殺生」や「殺すなかれ」という各宗教の基本的戒律のみならず、憲法九条を掲げていること。各宗教の戒律が憲法九条と通底していると捉え、宗教的な意味づけによって憲法九条の遵守を訴えている点も、戦後日本の宗教者平和運動に共通する特徴である。とくに9・11以後は、憲法九条の宗教的な意味づけによる「いのちの尊厳」の普遍化というべき意味構築作業をみることができる。

③宗教・宗派の違いを超えた宗教間協力による運動の展開。この点も戦後から一貫しているが、現代ではその結びつきがネットワーク化しており、活動の機動力が高まっている。

④平和運動セクターの一環として、宗教者平和運動を位置づけることができること。労組とのつながりは戦後直後から継承されている特徴だが、現代の平和運動のニューウェーブとのつながりに見られる、市民団体とのネットワーク化は、現代の宗教者平和運動の新たな特徴である。

以上のような特徴を有する戦後日本における仏教社会運動（とくに宗教者平和運動）は、日本社会の公共的領域において活動がなされ、一定の公共的役割を果たしてきたといえる。とりわけ、2001年9月11日のニューヨーク同時多発テロ事件以降の日本社会における宗教者平和運動は、（一般市民の目に映る機会が少ないものの）平和運動セクターの一環として、宗教的に意味づけされた日本国憲法九条を掲げ、さまざまな立場の宗教者や労働者、市民たちとのネットワーク関係の中で公共的役割を果たしていることが明らかとなった。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計5件）

①大谷栄一、現代日本の宗教者平和運動の展開、平成 19～21 年度科学研究費補助金 基盤研究 (C) 研究成果報告書 戦後日本社会の形成と仏教社会運動、査読無、2010、pp. 11-22

②大谷栄一、宗教者平和運動と憲法 9 条、国際宗教研究所ニューズレター、査読無、第 61 号、2009、pp. 37-41

③大谷栄一、「近代仏教になる」という物語——近代日本仏教史研究の批判的継承のための理路、近代仏教、査読有、第 16 号、2009、pp. 1-26

④大谷栄一、明治期日本の「新しい仏教」という運動、季刊日本思想史、査読無、第 75 号、2009、pp. 14-35

⑤大谷栄一、近代日本仏教史研究の方法論、佛教學報、査読無、第 50 輯、2008、pp. 21-47

[学会発表] (計 6 件)

①大谷栄一、「一九三〇年代の伝統仏教・新興仏教・反宗教の交渉と対立」、日本仏教総合研究学会第 8 回大会、2009 年 12 月 16 日、京都府立大学

②大谷栄一、「戦争は罪悪か? ——20 世紀初頭の日本仏教における非戦論」、第 21 回国際佛教文化学会「仏教と平和」、2009 年 10 月 17 日、圓光大学、韓国

③大谷栄一、「近代日本仏教史研究の方法論」、国際セミナー「中国・日本・韓国における仏教と人文学の疎通」、2008 年 5 月 30 日、東国大学校仏教文化研究所、韓国

④大谷栄一、「中島重の社会的基督教と妹尾義郎の社会的仏教」、日本宗教学会第 67 回学術大会パネル「宗教者は社会にどのように向き合ってきたか—近代日本の事例」、2008 年 9 月 15 日、筑波大学

⑤大谷栄一、「政治参加する仏教者たち——昭和初期の新興仏教青年同盟の事例」、日本宗教学会第 66 回学術大会パネル「近代性とく仏教>——越境する近代仏教研究」、2007 年 9 月 16 日、立正大学

⑥大谷栄一、仏教の平和運動——「平和」認識のポリティクス、「宗教と社会」学会第 15 回学術大会テーマセッション「仏教ルネッサンスの向こう側——ラディカルな現代仏教批判」、2007 年 6 月 10 日、駒澤大学

[図書] (計 4 件)

①大谷栄一、世界思想社、社会貢献する宗教、

2009 年、pp. 08-132

②大谷栄一、平凡社、宗教と現代がわかる本 2008、2008 年、pp. 228-231

③大谷栄一、法蔵館、国家と宗教——宗教から見る近現代日本、2008 年、pp. 447-481

④大谷栄一、新泉社、入門 グローバル化時代の新しい社会学、2007 年、pp. 72-75

6. 研究組織

(1) 研究代表者

大谷 栄一 (OTANI EIICHI)
佛教大学・社会学部・准教授
研究者番号：70385962